

子どもといっしょに 雑草や草花を観察しよう

『子どもと一緒に見つける草花さんぽ図鑑』 発刊記念

『子どもと一緒に見つける草花さんぽ図鑑』（永岡書店）、の発刊を記念して、雑草と草花の観察会を実施しました。この本を見ながら、子どもといっしょの観察会でした。

このレポートではその一部を紹介させていただきます。

『草花さんぽ図鑑』はNPO 法人自然観察大学の監修です。

観察会を担当いただくのは、岩瀬先生、村田先生、飯島先生の3人。

実際にこの本の監修をされたみなさんです。

この記事内にある『草花さんぽ図鑑』の画像は下手なスキャンングのためにちょっと残念なことになっていますがご容赦ください。



レポートで掲載した写真はNPO 法人自然観察大学およびその関係者のものです（禁無断転載）

●すき間のツメクサ

建物（木場ミドリアム）のまわりはコクリートブロックが敷き詰められていますが、ブロック間のすき間に緑の帯が見えます。

この緑の帯は、人の歩く範囲ではほとんど見られませんが、人の通らないすみの方では目立っています。



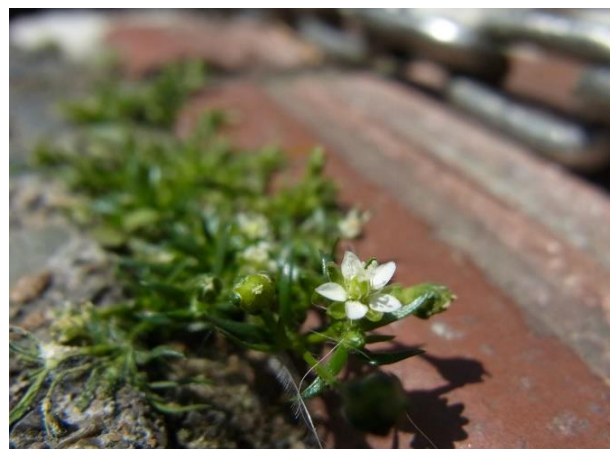
プランターのまわりに緑の帯が見える



『草花さんぽ図鑑』よりツメクサのページ

近づいてよく見ると、この緑の帯は大半が小形になったツメクサです。『草花さんぽ図鑑』に載っているツメクサとはずいぶん感じが違いますね。

よく見ると、茎が枝分かれして、葉が爪のように細い形がわかります。



ブロックのすき間のツメクサ。小さくても花をつけている(自然観察大学ブログより)

踏みつけに耐えて、まるでコケのような形ですが、建物に近づくとそれが少しずつ大きくなります。出入り口の近くに置かれたプランターのそばのものは高さが15cmほどになっています。

踏みつけ圧の強さに応じた大きさの勾配が現れています。雑草の生き方の一面を見せてくれます。

(岩瀬徹)

●カラスノエンドウとスズメノエンドウ

生け垣に沿ってカラスノエンドウが見られます。ちょうど花と実をつけています。

花は赤紫色、チョウのような形(蝶形花)をしていて、葉の付け根に2個ずつついています。

さらに、葉の付け根には蜜を出す托葉がついていて、アリがこの蜜を求めて集まることでカラスノエンドウは他の昆虫などから守られていると言われています。近寄って見ると、葉は小さい葉が多数ついていて(複葉)、先端は巻きひげになっているのがわかります。この巻きひげで他の植物に巻き付きながら上に伸びていきます。

この時期には緑色のさや(果実)が見られます。このさやは笛にして遊ぶことができます。『草花さんぽ図鑑』にやり方が載っているので試してみましょう。

膨らんださやを採って付け根の方を少し切り、中から種を取り出して口にくわえて吹きます。ちょっとむずかしいようですが、うまくいくとピーツという音がします。



『草花さんぽ図鑑』より

やがてこのさやが黒くなります。この色からカラスの名がついたと言われていています。晴れた日にはさやがはじけて種の飛ぶパチパチという音を聞くことができます。ぜひ聞いてみてください。



『草花さんぽ図鑑』より カラスノエンドウとスズメノエンドウのページ

少し離れたところにスズメノエンドウが生えています。

ここは巻き付くものが近くにないので、地面をはうように生えています。カラスノエンドウよりかなり小さく、見過ごしてしまいそうです。近寄ってよく見ると、白紫色の蝶形花をつけています。カラスノエンドウとは異なり、長い柄の先に花がついています。葉はカラスノエンドウと同じ複葉で、先端は巻きひげになっています。まだ実はないようですが、柄の先に数個のさやがつきます。1個のさやに2個の種が入り、黒く熟してはじけます。

(飯島和子)

●ハルジオンとヒメジョオン

この区域は、公園内の他の地域と比べてかなり草が茂っていますね。虫たちの住処として草刈りを減らしている区画です。

草丈1mぐらいの白い花が群生しています。この花は身の回りで、ごく普通に見られますね。人によっては「貧乏草」などと言っています。見つけるとすぐに抜かれてしまいます。

名前はハルジオンです。大正時代に日本に入ってきた、北アメリカ原産の帰化植物です。4~5月に

空地や道端によく見られます。

花は上を向いて咲いていますが、つぼみは下向きに垂れています。花が開くころにつぼみが頭を持ち上げます。

すぐそばに、よく似た草が見られます。こちらはまだ花をつけていません。こちらはヒメジョオンです。ヒメジョオンも北アメリカ原産の帰化植物です。ハルジオンより早く明治維新前後に日本に入ってきました。空地や道端に広く分布しています。



『草花さんぽ図鑑』より ハルジオンとヒメジョオンのページ



画面の手前の白い花を咲かせたのがハルジオン。画面奥の濃緑色がたっぷりした感じのがヒメジョオンで、まだ花は開いていない

花の時期はハルジオンよりも1か月ほど遅いようです。『草花さんぽ図鑑』では花の咲く時季ごとに編集されていますので、ハルジオンとヒメジオオンはページがとんでいます。

2種類を比較してみましょう。植物全体の色がハルジオンよりヒメジオオンの方が濃い緑色です。立ち姿はヒメジオオンがハルジオンよりすっきり立っていますね。

ちょっと失礼して1本だけ茎を折ってみましょう。ヒメジオオンは茎の内部に白い髓（ずい）が詰まっています。ハルジオンは中が空洞ですね。この違いが見た目に影響しているのかも知れません。葉の付き方をくらべてみると、ハルジオンは茎を抱くようにしていますが、ヒメジオオンは茎を抱いていません。



ハルジオン(左)の茎は中空で葉が茎を抱く。ヒメジオオン(右)の茎は詰まっていて葉が茎を抱かない(『新・雑草博士入門』より)



『草花さんぽ図鑑』より
ハルジオンとヒメジオオンのロゼット

ハルジオンもヒメジオンも冬の間はロゼット(図鑑 p. 226, 227, 233)で過ごしていますが、今はどうなっているのでしょうか。株もとを見てみましょう。ハルジオンはロゼットの葉が見られますが、ヒメジオンは見られません。

ここではできませんが、掘って地下部を比較してみると違いがあります。

ハルジオンは下に伸びた根の他に、地下茎が横に這っています。その先に芽が付いています。大きなロゼットの周りにはいろいろなサイズのハルジオンのロゼットが密に見られます。同じ株から生じたものです。ヒメジオンはこのような地下部は見られませんが、隣のロゼットの間が離れています。

ハルジオンとヒメジオン、2種類の似た植物を比較しながら観察できましたね。このようにていねいに見ると違いがはっきりします。

(村田威夫)

●ヘラオオバコ

草むらの中にヘラオオバコがたくさんあります。

オオバコに似ていますが大柄で、葉が細くへら形というのでついた名です。

このヘラオオバコは特大で、茎の高さが60cm ぐらいあります。



『草花さんぽ図鑑』よりヘラオオバコのページ



ヘラオオバコの花序(自然観察大学ブログより)

茎の先に花序(穂)があります。花序にはたくさんの小花がありますが、ルーペを使って観察してみましょう。普通のオオバコより大きいので観察しやすいと思います。

小花は穂の下の方から咲いていきます。はじめは雌しべが出ます。次に雄しべが出ます。そのころ雌

しべの先はしおれています。雄しべがしおれるころ、雌しべは実になっています。つまり一つの小花内では受粉しないようしくみです。

ヘラオオバコの一つの花序で、このようないろいろな段階を見ることができます。花序の先の方はまだつぼみです。花序を見ながら、つぼみから果実までの流れを組み立てていくのは意外とむずかしく、ちょっとした頭の体操になります。

(岩瀬徹)

●カタバミとオッタチカタバミ

カタバミは春から夏に道ばたや庭先でよく見かける黄色い花です。花びらは5枚で、地面をほうように生えています。3枚1組の葉は夜には閉じます。



『草花さんぽ図鑑』よりカタバミとオッタチカタバミのページ



カタバミの葉で10円玉をみがくと
その部分がピカピカになる

葉にはシュウ酸を含み、十円玉をみがくとピカピカになります。スタッフがピカピカの十円玉を作ってくれました。

カタバミと同じように、道ばたや庭先で見られますが、茎が立ち上がってその先に花をつけているのがオッタチカタバミです。カタバミよりも人に踏まれないような場所に多いです。オッタチカタバミは北アメリカ原産。カタバミより全体に毛が多く、地下茎で広がっていくことなどの違いがあります。

どちらも実はオクラのような形でよく似ています。触れると縦に裂けて、種が飛びます。このとき、種のまわりの薄い半透明の皮が裏返しになります。実のついているのを見つけたら、楕円形の種と半透明な皮を見てください。

(飯島和子)



オッタチカタバミの果実と種子を飛ばすしくみ(『新・雑草博士入門』より)

『子どもと一緒に見つける草花さんぽ図鑑』は、これから観察してみようというみなさんのためにつくられた本です。

観察会では、つい細かな話が出てしまいましたが、参加いただいたみなさんはルーペを使っていないに観察してくれていました。ありがとうございました。

このところ身近な雑草や草花の本が人気で、多数の本が出版されているようです。

そんな中で、『子どもと一緒に見つける草花さんぽ図鑑』はほかの本とは一味違った本格的な本になったと自負しています。

おかげさまでみなさまから好評をいただいているようで、重版を重ねています。発刊後3か月ほどで、すでに3刷だそうです(2019年7月末現在)。

『子どもといっしょに 草花さんぽ図鑑』を今後ともよろしくお願いします。

レポートまとめ：事務局〇